

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）中間評価結果

大 学 名	名古屋大学
タ イ プ	B - I
構 想 名	修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">B	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
(コメント)	<p>日本の科学技術力を支える工学系の修士課程に焦点を当てた日米協働教育に特徴を有するプログラムであり、ミシガン大学との単位互換を含めた協働教育の実施、アカデミックカレンダーに十分配慮した学生の派遣と受入、海外コーディネーターの雇用、定期学生ワークショップの開催による参加学生の確保などの努力により、名古屋大学大学院工学研究科修士課程の国際化は進展しており、交流学生に関する数値目標はおおむね達成されている。また、国際化に対応する教員の採用や資質の向上に関しては活発な活動が認められる。</p> <p>一方で、「国際共同大学院の創成」という段階には至っておらず、今後、更に実効性・スピード感のあるプログラムの進展が望まれる。</p> <p>本プログラムにおいてミシガン大学との交流には進展が認められるが、当初計画していたカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）との交流の進展が十分ではなく、名古屋大学、ミシガン大学、UCLAの3大学による協働教育プログラムという視点をより一層明確にしていくことが求められる。</p> <p>定期学生ワークショップの開催などによる参加学生数の確保のための努力は認められるが、中期・長期の外国人学生の受入数や日本人学生の派遣数の向上が、これからの課題である。</p> <p>また、単位認定を伴う交換留学では日本人学生の英語力不足が問題として提起されているが、日本人学生の英語力を高めていくための戦略的な方策や効果的な教育システムの整備が望まれる。</p>